

いま日本農業とその未来が問われています。

今こそ飼料用米の増産を呼びかけます！

2020年7月吉日

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

当会は「日本飼料用米振興協会」という一般社団法人です。

この名称のとおり、わが国における飼料用米の増産が日本の農業や食料の未来にとって重要だという思いから、活動を続けている組織です。生産者、消費者、流通、飼料関係者、学識経験者、生協関係者などが主たる構成員です。

主な取り組みとしては、毎年11月に「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」、そして3月には「飼料用米の普及のためのシンポジウム」を開催するなどして、この増産の夢を果たすべく、このような機会に多くのおみなさんとの出会いを楽しみにしてきました。

ここ数年は、このシンポジウムの会場で、農林水産省と共同で進めている「飼料用米多収日本一コンテスト表彰事業と表彰式」（当協会、農水省共同開催）と「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト表彰式」（日本養豚協会主催、農水省後援）の取り組みにも力を入れてまいりました。

しかし、今年は新型コロナウイルス禍で、このシンポジウムを中止せざるをえませんでした。

中止には大変残念な思いがあります。

そこで飼料用米の今後を重要視する観点から、意見（提言）を述べさせていただきます。

意見は、至って単純明快です。

それは「飼料用米の増産」です。いまが勝負どころだと考えるからです。

水田産業政策が3年前に転換し、「水田転作」の重要課題が、宙に浮く形になり

ました。このこと自体、色々な意見がありますが、現時点で確認したいことは、この転作の行方です。

私たちの主張は、飼料用米は『水田転作』ではなく『水田本作』です。

水田本作として飼料用米を増産し定着させていくことが本筋で、わが国の食料の安全保障に寄与すると考えるからです。

ここ数年、飼料用米の作付面積は減少傾向で推移しています。

背景にはこの2年間の主食用米の価格動向があります。

この2年間、大雨など異常気象による作況の低迷で米価は堅調に推移してきました。

問題は、この先です。みなさんとともに考えたいのです。

今回のコロナ禍で、世界の食料生産問題が注目を浴びています。

農業と畜産が食料問題のかなめであることが分かりました。

農業と畜産の連携が重要です。その中で日本ができる農産物としては、なんとしてもまず重要なのは米です。米作は、連作障害がなく、毎年同じ田んぼで生産ができます。

日本の農業・農村の現状は将来に向けて持続可能なのか、とても危惧されます。

さらに世界的な異常気象や大規模災害、感染症の流行など、これからも私たちの食料生産を脅かす地球規模の環境変化が予想されます。

消費者も日本の農業・食料問題を自分の問題として関心をもち、国産の飼料用米による畜産物の利用を広め、出来るところで関わりながら生産者をはじめ流通、企業、研究者らと共に、持続可能な日本農業の発展と食料自給率・飼料自給率の向上のために、取り組んでいかなければと思います。

日本飼料用米振興協会への、変わらぬご支援・ご助力を関係各位のみなさまにお願いしつつ、連帯の意志を表明させていただきます。